

コロナと移動運用

de JA1RIZ

4月から「外出自粛」措置が取られて、アマチュア局の移動も儘ならない状態になっていました。

今回の新型コロナウイルスの場合、感染力が強く又、高齢者だけでなく全世代にわたって急激に体調が悪化して死亡することも起きている訳で、その正体や治療法もいまだ確立しているとはいえない事態となっています。

その昔には、「はやり病」や飢饉や戦争で思うように外出ができないなどという状態とはこんな事なのかもしれない。こんなことは経験したことがない世代が多く、自分も例外ではありませんでした。めったにない大変な時期に遭遇している訳です。

アマチュア無線の場合、一人でやっている分には「三密」にならず、自宅からなら「ステイホーム」で尚よろしい趣味であるという事になるのです。

只、それがFBな状態かということになると、当局の様に、電波の飛びに関しては、常置場所の条件が良くなく、もっぱら移動運用に精出すことになる。常置場所が良い条件の局と太刀打ちするには、良いロケーションに移動するのが最強の一策である。というのでは喜んでばかりいられない。

市内の移動ならまだしも、市外への移動は白い目で見られ、県境を越えるなどは悪の一つにさえなっている昨今であります。

この状況では致し方なし、愚痴ばかりこぼしていてもプラスにはなりません。

それではと、家でできることやってみようという訳で、工作ハムをやっていました。

① 給電部関連

【バランの製作】 バランとは不平衡型(同軸ケーブルなど)と平衡型(アンテナなど)の回路を結合するためのもの。トロイダルコアを使用して、強制バランを作ってみる。1つのトロイダルに組み合わせた3つのコイルを巻いたもの。広帯域・大きな通過電力が特徴とのこと。

FT82-#43 の小さなトロイダルで作りましたが 1.8~30MHz くらいまで何とか使えています。

フロート形などというのを試みましたが、効果イマイチだったですね。

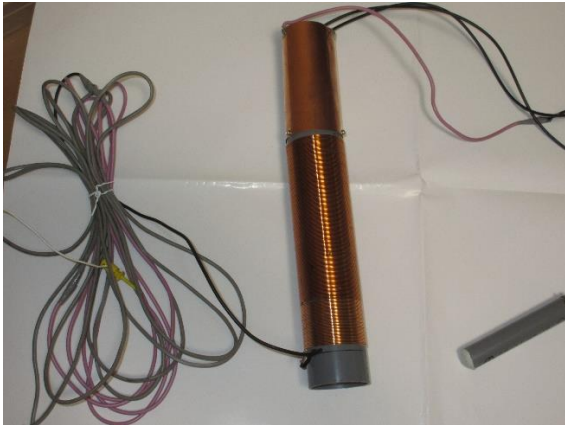


② 1.9MHz 釣竿 ANT

【トッローディング形垂直 ANT】 少しでも電流の腹を上の方に持っていけたらと、200巻のコイルを先端近くに配したもの作ってみました。基部にもコイルを巻いて同調をとるようにしています。設置場所によりかなり状態が変化するので、運用するたびに調整が必要です。フルサイズDP等では周囲の変化はあまり受けませんが、このような短縮ANTではクリチカルでその都度SWR計が必要になります。

また、基部コネクタの所には、ANT 端子～アース端子間にトランス(トロイダルコイル)を挿入しています。これは、接地形 ANT の場合 ANT 端子側が高電圧になることがあるので、直流的にアースに落ちておくとFBとの情報からでした。

基部コイルには、「自在ブッシング」なる電気工事材料をつかって、「エアードックスコイル」風に作ってみました。我ながら上手にできたと自画自賛！ hihi



【先端側コイルとエレメント線】



【基部コイル】

不器用な作ではありますが、結構うまく動作するものです。右端の年季の入った MP-MP 変換コネクタは某OTの作です。自作派万歳ですね。添付写真を御笑覧ください。



いちおう、釣竿は10mのグラスファイバー製なので展張すると結構長いです。hihi

(完)